京都府における水素利活用の拡大に向けた取組の方向性の概要

現状分析

国の方向性
- 水素基本戦略
- 価格差支援
- FC商用車重点地域等

周辺地域における動向
- 兵庫・大阪等における輸入水素
- サプライチェーン構築に向けた動向（鉄道輸送等、日本海側のSC等）

京都府におけるこれまでの取組
- 京都府水素社会みらいプロジェクト検討会議
  - 水素活用の重点分野の検討等
- 実証事業
  - 物流と防災をテーマ
  - 地産地消水素・FCFL、FCV等の実証

京都府における水素需要
- 小～中規模の水素
- 北部と南部で特性に相違
- 熱需要／物流／BCP等の需要

京都府のポテンシャル
- 意義と発信力～京都議定書等
- 企業や教育・研究機関の集積
- 世界を代表する観光地

国や周辺と連携し進める

これまでの取組を活かす

京都の特性を活かす

2050年の姿

- 水素利用（産業、業務・家庭、運輸）
- サプライチェーン（輸入水素、地産地消水素等）
- 人材と産業
- 水素価値の普及・定着

府南部エリアにおける面的取組推進

- 水素サプライチェーン構築
- 物流等の結節点エリアにおける水素利用の推進
- 産業集積エリアにおける水素利用の促進

府中部エリアへ波及

府北部エリアにおける面的取組推進

- 長田野工業団地等での小規模地産地消モデルの構築
- 舞鶴港の脱炭素化
- 舞鶴・宮津の受入拠点港化

府南部・北部エリア（共通）における面的取組推進

観光エリアにおける水素利用の促進

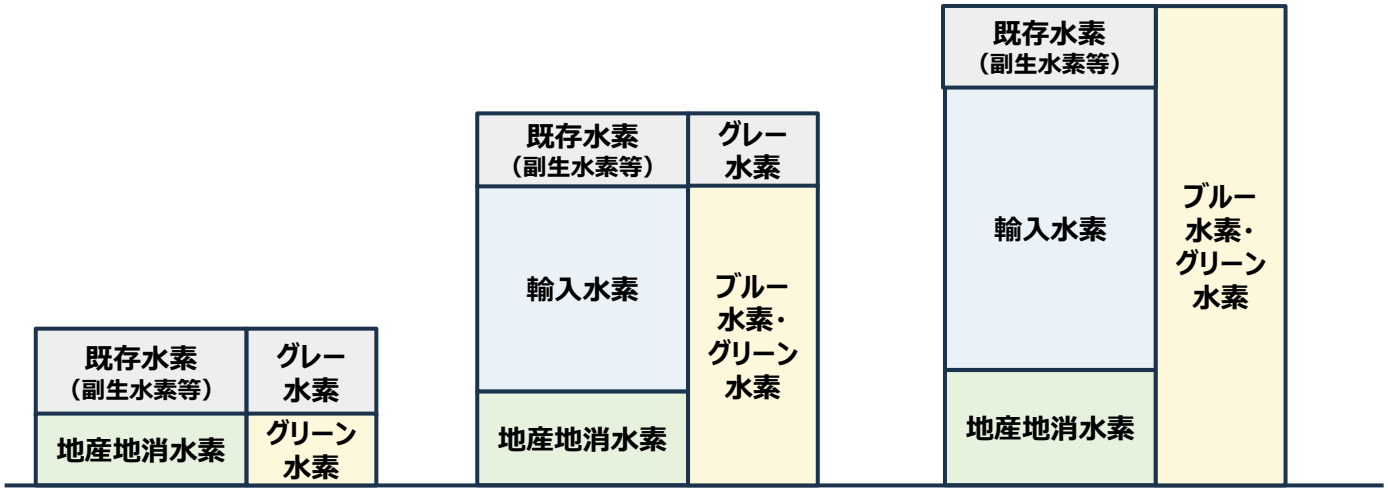
水素利用のロードマップ

実証・小規模利用から開始し、輸入水素の供給開始とともに本格利用

	～2030年頃	～2040年頃	～2050年頃
国の目標	300万トン/年	1,200万トン/年	2,000万トン/年
周辺の輸入水素の動向		輸入水素の輸入開始	⇒ 拡大
e-メタン	1-5%	-	90-50%程度

府における水素利用

府内における供給イメージ



利用イメージ

実証・小規模利用（利用量小）

FCFL、燃料電池、エネファーム、水素調理器具、FC車両・水素ST等

左に加えて

本格利用開始（利用量中）

工場の熱利用（ボイラー／バーナー等）、業務・家庭熱需要（e-メタン）、港湾施設、水素船舶・鉄道等

利用定着（利用量大）